原野もっく長きた

石窯と暖炉グリル

新コテージ2種4棟

アウトドア事業を展開するきたもっく（長野原町北軽井沢、福嶋誠代表）は、キャンプ場「北軽井沢スウィートグラス」に新コテージ2種4棟をオープンした。「理想の薪（まき）火暮らし」を提案し、石窯や暖炉を備える。建材には八ツ場ダム（同町）建設で伐採したケヤキなど地元材も使っている。

コテージは調理室の形式によって名称を付けた。ピザなどを焼ける石窯がある「ムギ」と、暖炉グリル付きの「グルマン」の2種で、いずれも2階建てで延べ床面積97平方㍍。

各棟の定員は10人で、寝室を2カ所設けた。2階には2畳ほどのスペースにネットを張り、ハンモックのように寝転べる「部屋モック」を作った。

建物には浅間高原周辺のカラマツやアカマツなどを使った。グルマンの厨房（ちゅうぼう）の天井に通した見せ梁（ばり）は、長さ6㍍以上ある八ツ場産のケヤキを活用した。同社は「木のぬくもりを感じながら、快適に泊まってもらえる」としている。

1棟当たりの1泊の料金は、ムギが3万9千円～6万6千円、グルマンが4万2千円～6万9千円（いずれも税抜き。薪代を含む）。

暖炉グリルがあるグルマンの調理室。天井に通した見せ梁は八ツ場産のケヤキ